

NEWS RELEASE

報道関係者各位

2025/10/27
キョードーメディアス

フルマラソン化 10 周年！ 全国＆海外から集まった約 3 万人のランナーが横浜の街を走る！ 豪華ゲストも来場 「横浜マラソン 2025」開催！

今年も市民参加型のフルマラソン大会「横浜マラソン 2025」（主催・横浜マラソン組織委員会）が、10 月 26 日（日）に開催され、全国から集まった約 29,000 名のランナーが参加しました。



今年はフルマラソン化から 10 周年という大きな節目を迎え、当日の“会場のにぎわい日本一”を目指すとともに、横浜の魅力を国内外に発信。SDGs を意識した持続可能な大会運営など、未来につながる取組も強化。ハーフマラソン相当の新種目「湾岸ハイウェイラン」新設、カナダ最大級のマラソン大会「BMO バンクーバーマラソン」との間で連携協定締結など、これまで以上に注目を集めています。

横浜ランドマークタワー前でのスタート式では、横浜マラソン組織委員会・会長の山口宏さんが「ただいまより『横浜マラソン 2025』の開会を宣言します。みなさん、お楽しみください！」と開会宣言を行い、主催者代表として、大会組織委員会・名誉会長を務める山中竹春横浜市長が「全国からお越しの 3 万人近いランナーのみなさん、いよいよスタートの時間が近づいてきました。横浜の街中がみなさんを応援しています。全力で走り切ってください！」とエールを送り、大会組織委員会・名誉顧問の黒岩祐治神奈川県知事は「みなさん、盛り上がっていますか？ 雨と寒さに負けてないですか？ 私は 3 年前までフルマラソンに参加しておりました。だから横浜マラソンの良さを誰よりも分かっております。最高のマラソンです！引退してしまったので、みなさんがうらやましくてしょうがない。みんな、かっこいいです！ 6,000 人のボランティアのみなさんもランナーのみなさんを支えます。横浜を思い切り走ってください」と力強く呼びかけました。



報道に関するお問合せ（株）キョードーメディアス TEL 03-6555-2290

うんりいん
雲林院、佐藤、山内、安道 info@kyodomedias.com

NEWS RELEASE

応援ゲストの谷原章介さんは「雨の横浜も乙なもんです。みなさんの熱気で吹き飛ばしてください。楽しんでね！」とランナーたちに声をかけ、スタートと共に、ゲストのアレックス・ラミレスさん（元横浜 DeNA ベイスターズ監督）、EXILE MAKIDAI さんをはじめ、八田秀雄さん、尾藤朋美さん、山崎勇喜さん、信櫻空さんらが手を振って送り出しました。ラミレスさんはランナーから声援を受けて“ゲッツ！”ポーズで応えていました。スタート式には「GREEN×EXPO 2027 公式マスコットキャラクター」のトゥンクトゥンも登場。スタート後にはランナーたちに手を振ったりハイタッチをして応援しました。

「横浜マラソン」の名物となっているのが「給水パフォーマンス」と「ラッキー給食」。「給水パフォーマンス」は、各給水所で“ランナーを元気づける”をコンセプトに応援パフォーマンスをいろんな団体、グループが披露。ダンス、チアダンス、ハワイアンダンス、吹奏楽、ゴスペル、ビッグバンドジャズなど、バラエティーに富んだ内容でランナーたちを応援しました。



「ラッキー給食」は、ランナーの方々に楽しみながらゴールを目指してもらうため、地元横浜、神奈川の銘菓やおすすめ食品を用意。どこの給水所で何が食べられるかは当日のお楽しみになっており、“食べられたらラッキー！”と思えるところから「ラッキー給食」と呼ばれています。さらに、昨年スタートした「ラッキー給食総選挙」の今年の結果は、高橋優斗さんが CEO 務める横浜バニラ株式会社「塩バニラフィナンシェ」が 1 位、2 位は株式会社ありあけ 横濱ハーバー「ダブルマロン」、3 位が株式会社江戸清の「お江戸の子ブタまん」となりました。



応援ゲストもランナーとして参加。横浜出身の長距離ランナー信櫻空さん、俳優の谷原さんが「私はフルの経験がないので、少しですけどフルマラソンの方と一緒に走れたのが貴重な経験になりました」「地元で一番好きなのがみなとみらいの大観覧車や赤レンガで、その前の道路を走ると、その景色を独り占めしている感覚になって、走っていて楽しかったです」とコメント。

「横浜マラソン」常連の谷原さんは「走ってる最中は疲れて疲れてしょうがなかったんですけど、港の方に入ってからご年配の方が『頑張ろう』って声をかけてくださって、最後の 2km ちょっと、ゴールまで一緒に走りました。こういう応援のし合いとか出会って素晴らしいなと思いました」「毎年参加させていただいてますけども、全天候の中、外気を感じながら街を感じながら走れるのが魅力だと思います。みなさんも日々努力して、短い距離でもいいので走ってみてください！」というメッセージも。



NEWS RELEASE



ラムレスさんは「ファンラン」に参加。昨年、一昨年は家族と一緒に参加されましたが、今年は一人での参加となりました。走り終えた直後の気持ちを聞いてみると「雨ということで今回は一人での参加になりましたが、ラムちゃんのファミリーを代表して楽しく走らせてもらいました！ た

った 3km でしたが、素晴らしい気分です」と笑顔。

昨年、「Ultra BOLIVIA Race 220km」で優勝を果たしたウルトラランナー・尾藤朋美さんは「フルマラソン」に 2 年連続の参加。「今日は朝、雨が降っていたのでお天気が悪くて悲しいなあって思ってたんですけど、沿道の温かい応援があったり、ボランティアスタッフさんの温かい声援とラッキー給食が最高だなんて思いました。エネルギーチャージしながら 42.195km を走ることができました」と振り返りました。

3 年連続で出場された競歩のオリンピック・山崎勇喜さんは“元競歩選手”ということで、フルマラソンのコースを今回も競歩で挑戦し、「沿道の方やボランティアの方のご声援だったり、応援パフォーマンスだったり、そういうものが全て力になりました。僕は海が好きなので、横浜のキレイな海を見たり、オシャレで美しい街並みを見られてすごくいい気持ちでした」と横浜の風景も満喫。

2025 年の第 101 回箱根駅伝 9 区の横浜駅前で「給水おじさん」として話題となった八田秀雄さんは、完走直後の感想を「マラソンは長いなあって思いましたね」と笑顔で答え、「『給水おじさんですか？』とか『頑張ってる！』とか、ランナーのみなさんが私を応援してたりして、それもうれしかったです」「記録にこだわるのも大事なことですけど、記録だけじゃなくて楽しく走るということもすごく大事なことです。景色を楽しんだり、走ること自体を楽しむというのも、私くらいの年齢でのマラソンの楽しみ方だと思っています。そういうふう楽しんで走る人が増えていいなとも思っています」という提案も。



「横浜マラソン TV」の中継でたすきリレーを行ったのは OWV。メンバー 4 人でリレー形式でフルマラソンを完



走し、途中、横浜の街の魅力も番組内でしっかりと伝えてくれました。第一走者の浦野秀太さんは「スタート地点は『やっちゃんぞ！』みたいな熱気がすごかったですね。アナウンスとか空砲みたいな煙も出てて、祭り感があって楽しくスタートが切れました」と語り、「沿道の方々が大声で応援してくれて、素敵なファンの方がいっぱいいるなあっていうのも感じました。カッコいいところをみんなに見ていただけたかなって思いますね」と語って、第二走者を務めた中川勝就さんにマイクをバトンタッチ。「今回はみんなでタスキを繋いでいくということもあって、マラソンの楽しさを別の角度から知れたような

NEWS RELEASE

気がしました。仲間がいるっていうのはやっぱり大きくなって思います。一人で参加しようって考えてる方がいらっしゃったら、お友達とかと一緒に参加するっていうのもオススメです」と振り返り、マイクは第三走者の本田康祐さんへ。「打ち合わせの時から『第三走者が一番大変だよ』っていうのを聞いてたんです。僕もツラかったんですけど、周りを走ってるランナーさんたちも焦燥してて、そんな方たちを盛り上げられたらなと思って、声出しながら走りました。少しでも元気になってくれたらいいなって気持ちでしたね」「高速道路はツライんですが、走れる機会なんてなかなか無いので、高速道路に入る瞬間はめっちゃワクワクしました。現実っぽくない経験でしたし、漫画みたいな世界で、これはこれでいい経験になりました」と、大変な高速道路パートでの様子を語ってくれました。アンカーを務めたのは佐野文哉さん。「僕の担当するコースは7km ぐらいだったのでプレッシャーもなく楽しく走ることができました！ 景色も海が見えて、沿道で応援している方たちもフィニッシュに向けてどんどん盛り上がりが増してる感じが走っていても感じましたし、楽しかったですね」と走っている最中の気持ちを語り、「自分としてはそんなに疲れもなかったので、その分、フルマラソンでここまで頑張ってくれたランナーのみなさんの後押しができればいいな、パワーを分けられたらいいなという思いで、できる限りの笑顔と大声で力添えをさせていただきました」と、ラストスパートの時の気持ちも話してくれました。

FINISH STAGE では、トップランナーのインタビューや表彰式に加えて、フルマラソン化から 10 周年を記念し、豪華ゲストが続々登壇。「パウ・パトロールとあそぼう！」ステージには、チェイスとラブルが登場し、集まった大勢の子どもたちとともに元気にダンスを繰り広げるなど、フィニッシュエリアを大いに盛り上げていました。



■出走者人数、完走者人数、完走率

種目	出走者数	完走者数	完走率 () 内は 2024 大会
フルマラソン	21,334 人	20,194 人	94.7%(91.3%)
ペアルレー	412 組 (824 人)	401 組 (802 人)	97.3%
みなとみらい 7 kmラン	5,406 人	5,345 人	98.9%
湾岸ハイウェイラン	132 人	132 人	100%
ファンラン (中学生)	86 人	86 人	100%
ファンラン (ファミリー)	454 組 (908 人)	454 組 (908 人)	100%
ファンラン (車いす)	80 人	80 人	100%
合計	28,770 人	27,547 人	95.7%

報道に関するお問合せ (株) キョードーメディアス TEL 03-6555-2290

雲林院、佐藤、山内、安道 info@kyodomedias.com

NEWS RELEASE

■上位入賞者

【フルマラソン リザルト】*ネットタイム

■フルマラソン（男子）

順位	氏 名	記 録
1 位	河北 竜治	2 時間 18 分 59 秒
2 位	藤原 昂介	2 時間 19 分 50 秒
3 位	大山 幸志郎	2 時間 21 分 52 秒

■フルマラソン（女子）

順位	氏 名	記 録
1 位	合田 なぎさ	2 時間 43 分 27 秒
2 位	安留 ゆかり	2 時間 46 分 11 秒
3 位	川崎 由理奈	2 時間 50 分 51 秒

■みなとみらい7kmラン（男子）

順位	氏 名	記 録
1 位	鈴木 基史	21 分 46 秒
2 位	佐藤 忠俊	22 分 28 秒
3 位	葛窪 千晴	22 分 40 秒

■みなとみらい7kmラン（女子）

順位	氏 名	記 録
1 位	黒崎 萌乃香	25 分 24 秒
2 位	池本 愛	25 分 39 秒
3 位	村元 玲奈	25 分 57 秒

■大会名称 横浜マラソン 2025

■主催 横浜マラソン組織委員会（横浜市、神奈川県、（公財）横浜市スポーツ協会ほか）

■開催日 2025 年 10 月 26 日（日）

■種目

*フルマラソン

*ペアリレー

*みなとみらい7km ラン

*湾岸ハイウェイラン

*ファンラン（車いす）

*ファンラン（ファミリー）

*ファンラン（中学生）

■大会応援ゲスト

【大会応援ゲスト】谷原章介、アレックス・ラミレス、高城れに、MAKIDAI、高橋優斗
八田秀雄、尾藤朋美、山崎勇喜、信櫻空

【大会ゲスト】

【「横浜マラソン TV」ランナー】OWV

■大会公式サイト <https://yokohamamarathon.jp>



報道に関するお問合せ（株）キョードーメディアス TEL 03-6555-2290

雲林院、佐藤、山内、安道 info@kyodomedias.com